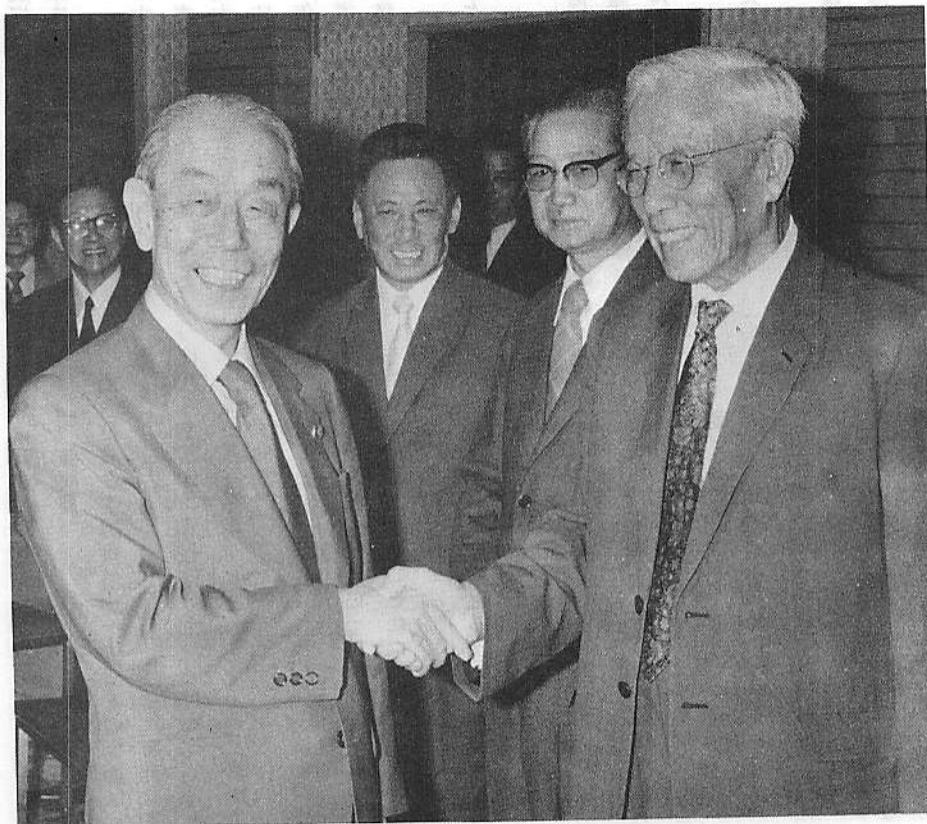


福田総理、中国科学院代表团周培源团长以下全員と会見 日中科学技術交流の飛躍的發展に全面的賛意を表明



ご 連 絡

日中科学技術交流協会事務局

107

東京都港区赤坂四丁目三番三〇号
横川ビル 日中協会内
電話(〇三)五八五―八七一〇

福田総理は九月二六日午後五時から中国科学院代表团周培源团长以下全団員と総理官邸で会見した。

福田総理は新聞社・テレビ局の要請に応じ、周团长と記念写真をとったあと、団員一人一人と握手をし、今回の中国科学院代表团が日中平和友好条約締結以後最初のお客さんであることに心からの歓迎の意を表明したあと、中国の科学技術者がこれからは何回も大勢日本に来ることを希望すると述べた。

周团长は来日して二週間、日本国民、科学技術界、日本国政府から親切で友好あふれる接待を受けたことに熱情をこめて感謝し、今回の訪日によって日中科学技術交流が飛躍的に發展すること及びこれは日中兩國、アジア、世界各国人民の平和と繁栄に貢献するものと確信すると述べた。

福田総理はこれに同意を示し、さらに日中科学技術交流が茅誠司、有山兼孝先生らによって促進されていることを自分は全面的に支持するものであり、また科学技術問題については自分はいさしうとなのでいつも茅先生に相談してうまくやっていることをユーモアをまじえて披露するなど和気あいあいのふんいきの中に終始した。

最後に福田総理は周团长に華国鋒主席によく伝えてほしいと述べると共に鄧小平副

総理が日中平和友好条約批准のため来日されることを心からお待ちしていることを伝えるよう依頼した。

福田赴夫総理と中国科学院代表团との会見には周培源団長、秦力生副団長、崔泰山秘書長、全団員、符浩大使、唐家璇書記官、路為龍北京日報記者、日本側からは有山兼孝会長、茅誠司常任理事、矢田部厚彦外務省科学審議官、田島高志外務省中国課長、小和田恒総理秘書官、漆戸敏事務局長が出席した。

協会役員と中国科学院

代表团が会談

共同研究の促進、日中學術センターの設立、国際会議への参加など交流は多岐で質的・量的に活発

出席者

協会・有山兼孝会長、越智勇一、茅誠司、近藤次郎、杉二郎、田村三郎、朝永振一郎、橋口隆吉、野上茂吉郎、和達清夫の各常任理事
鈴木昭憲、相馬胤和の各幹事、漆戸敏事務局長

中国科学院

周培源団長、秦力生副団長、崔泰山秘書長、王大珩、過興先、張致一、

郝柏林、顧以健、高慶獅、吳政安の各団員

協会役員と中国科学院代表团との会談は

今後の日中科学技術交流の進め方をテーマに九月十五日、二七日の二回にわたって日本学士院会議室、ホテルニューオータニ紫雲の間で行われた。

会談は双方から興味のある問題について活発に出され、次の七点について今後一層協力をし実現に努力することになった。

- 一、地震予知、高エネルギー物理、宇宙線天文など条件のあるテーマについて両国間で共同研究を行う。
- 二、日中両国の科学者を相互に派遣し合つて講演を行う。
- 三、留学生、研究生、研修生の政府ベースの交換実現に努力し、大学や研究所の間でも促進する。
- 四、日中合同のシンポジウムを開く。
- 五、日中両国の大学や諸研究機関が直接に連絡をとり合つて協力する。
- 六、日中學術センターを日中両国に設立するよう努力する。
- 七、日本で開かれる国際会議に中国の科学者を派遣する。日本側はその便宜を図る。なお中国側は日中科学技術交流協会の代表团が来年の適当な時期に中国

を訪問することを歓迎すると述べた。
\$ \$ \$ \$ \$ \$ \$ \$ \$ \$ \$ \$ \$ \$ \$ \$

中国科学院代表团歓迎宴
中国科学院代表团歓迎宴は九月十三日夜、東京ホテルニューオータニにて二五〇名の出席によって行われた。

歓迎宴は有山兼孝会長が歓迎のあいさつを述べ、茅誠司常任理事が乾杯の音頭をとった。これに対し周培源団長が感謝の辞を述べその後十数年ぶりにおとずれた周団長、日本訪問が初めている崔泰山秘書長らを囲んでなごやかな懇談が続いた。

中国科学院代表团
出席者の中には和達清夫日本学士院長、石坂誠一工業技術院長、越智勇一

前日本學術會議会長、井上春成新技術開発事業団理事、斎藤進六東京工業大学長、村井資長早稲田大学総長、千賀鉄也経団連常務理事、科学技術庁、文部省、農林水産省、外務省、日本學術振興会、東京大学、京都大学、お茶の水女子大学、千葉大学、青山学院大学、慶応大学、創価大学、法政大学、立教大学、数学会、物理学会、化学会、地震学会、東京地学協会、海洋学会、天文学会、高分子学会、精機学会、機械学会、電気学会、魚類学会、航空宇宙学会、航空宇宙工業会、造船学会、鉱業会、鉄道技術研究所、気象研究所、理化

学研究所、機械技術研究所、繊維高分子研究所、電子技術総合研究所、電信電話公社、専売公社中央研究所、放射線医学総合研究所、高エネルギー物理学研究所、鉄鋼協会、ソニ中央研究所、日立製作所中央研究所、富士通、日本I・B・M、富士電機製造、日本農薬、協和醸酵工業、品川白煉瓦、西島製作所、加藤製作所、バンドー化学、日本油脂、東レ、日本工営、千代田化工建設、味の素、泉自動車工業、クラレ、帝人、東京芝浦電気、日産化学工業、日本製綱所、日本光学工業、前田建設工業、三井造船、日本陶器、石川島播磨重工業、日本電気精器、大昭和製紙、日本酸素、帝国酸素、日本鋼管、ナック、石油公団、動力炉・核燃料開発事業団の責任者。

政府、大学、公・民間企業研究所の教授、科学研究者。

日中関係団体からは日中協会、日中友好協会、日中文化交流協会、日中経済協会、日本国際貿易促進協会、日中長期貿易協議委員会

の代表者。

日中書店、企業、貿易商社の代表者。

また朝日新聞、読売新聞、毎日新聞、日本経済新聞、共同通信社、N・H・K、フジテレビからも関係者が出席した。

中国大使館からは肖向前、梁耕参事官らが招きに応じ出席した。

中国科学院代表团

各方面を訪問

日中科学技术協定早期締結を

政府関係では科学技術庁(伊原義徳次官)、文部省(井内慶次郎次官)、通産省(石坂誠一工業技術院長)、外務省(有田圭輔次官)、農林水産省(松山良三審議官)を訪問した。

中国科学院が政府各省庁を公式訪問するのは初めてであったが、親しみのこもった話し合いが続けられ、日中科学技术協定早期締結に努力することに合意し、政府研究機関と中国科学院研究所との交流を行うことやまた科学技術庁が派遣する科学技術調査団訪中を歓迎するなど実り多いものであった。

日本学士院、日本学術会議、

日本学術振興会を公式訪問

周团长は学術三団体訪問のさい「日本学士院和達清夫院長、日本学術会議茅誠司、朝永振一郎、江上不二夫、越智勇一元会長、伏見康治会長、日本学術振興会杉二郎常務理事諸氏はこれまで中国を訪問し日中学术交流に尽力されているが三団体を訪問するのは初めてである。これから公式な関係としたい。日本

学士院、日本学術会議、日本学術振興会の代表团がそれぞれ適当な時期に中国に来られるのを歓迎する」と述べた。

三学術団体の代表者はこれに対して賛成を表明し、各学術団体の性格と役割を説明し、中国科学院と今後一層関係を強めることを希望した。

東京

東京では東京大学、東京工業大学、早稲田大学、慶応大学、国立がんセンター、国立遺伝学研究所、電子技術総合研究所、東京工業試験所、理化学研究所、三菱化成工業生命科学研究所、日立製作所、富士通、日本I・B・M、日本油脂、創価学会、筑波研究学園都市、宇宙科学博覧会を訪問し各所で心あふれる大歓迎を受けた。

東京大学は九月一九日、向坊隆総長、平野龍一総長特別補佐、山村秀夫医学部長、藤井澄二工学部長、田丸謙二理学部長、逸見謙三農学部長、吉田寿雄事務局長、大場和夫学生部長と留学生、研究生、大学・研究所と中国科学院研究所との交流について懇談、留学生では日本と中国の学制の違いなどですぐ実現するには障害があるが、これは政府間でよく検討し解決をはかり、当面は研究生を増加することや、研究所間の交流促進を東京大学

と北京大学、中国科学院とて行うなど話合った。その後、向坊総長主催の中国科学院歓迎昼食会が全学部長、中国留学研究生全員とその指導教官参加によって学生会館で盛大に行われた。

理化学研究所は福井伸二理事長、宮崎友喜雄副理事長、田村三郎招聘研究員から理化学研究所の成り立ちについて説明を受けた後、団員の専門にわかれ、有機化学、レーザー、電子計算機方面について参観した。

日立製作所、富士通、日本I・B・Mの三社はコンピュータについて中国科学院代表団を工場研究所に招き技術説明を行った。

創価学会は池田大作会長の招きにより、九月二七日夕方訪問、本部では約三百人の会員が出迎えた。

周培源団長と秦力生副団長は九月二七日、日本学術会議講堂で「中国科学技術の現代化」中国科学院について」の講演を行った。

また周団長は東京大学、京都大学で「乱流」についての学術報告を行った。

仙 台

東北大学は九月十七日夜前田四郎学長が歓迎宴を開催、歓迎宴で、前田学長から今二人の研究生が在学しており来年は五名になることが紹介された。十八日は岩崎俊一、御子柴

宜夫教授の案内で高速力学研究所、電気通信研究所、金属材料研究所、図書館を参観、さらに魯迅碑を訪れ、文豪魯迅が仙台で学んだ時を忍んだ。

京 都 ・ 大 阪 ・ 名 古 屋

京都では九月二日夜京都日中科学技術者交流協会主催による歓迎会が盛大に行われた。これには石原忠雄副会長、立石一真副会長、吉川幸次郎氏、岡本道雄京都大学総長、吉田徳之助京都工芸繊維大学長、梅原猛京都市立芸術大学長、依田義賢、金子二郎日中友好協会京都、大阪の責任者が出席した。

京都大学は外国出張から帰国したばかりの岡本総長が九月二日、朝から総長室で全学部長とともに懇談した。席上河野健二人文科学研究所長より京都大学に招聘したい中国の教授の名簿が周団長に渡された。同日夜は京都大学岡本総長主催の歓迎宴が京都大学関係者多数の参加によって盛大に行われた。

島津製作所では横地節男専務の説明で三条工場を参観、周団長はこのような科学機器を我々の研究所にとり入れ科学研究を進展させなければならぬと述べた。

京都を離れるにあたって周団長は湯川秀樹博士に病氣見舞の色紙と見舞品を贈った。

また外国出張中の奥田東京日中科学・技

術者交流協会会長にお礼状と記念品を贈った。大阪大学は若槻哲雄学長自らの案内で、微生物病研究所、蛋白質研究所、レーザー核融合研究センター、核物理研究センター、超高压電子顕微鏡センターを参観した。

名古屋では二五日夜日中科学技術交流東海懇話会主催の歓迎宴に出席した。歓迎宴には会長の平田義正名古屋大学教授、石塚直隆名古屋大学学長を始め名古屋大学、名古屋工業大学、愛知工業大学、トヨタ自動車工業、大同特殊鋼、中部電力等学界、産業界の代表的な科学・技術者が参加した。次の日は名古屋大学と基礎生物学研究所、分子科学研究所の二組に分かれ参観を行った。

京都・大阪・名古屋訪問期間中代表団は、関西学院大学、広島大学両生類研究施設、大阪水素、国立民族学博物館、清水寺、奈良市を訪問した。

中国科学院代表団が答礼宴

中国科学院代表団は帰国を前にした九月二日、東京で答礼宴を行った。

答礼宴には今回の訪問で関係のあった東京関東を中心とする政府、大学、産業、科学技術団体、中国科学院と関係のある団体の責任者、当協会の役員など約二百名が招かれて出席した。中国側からは周培源団長以下団員全員と符浩大使、大使館からも多数参列した。